



# さとのかぜ

No.173号

千葉県いすみ環境と文化のさと

2010年10月1日発行

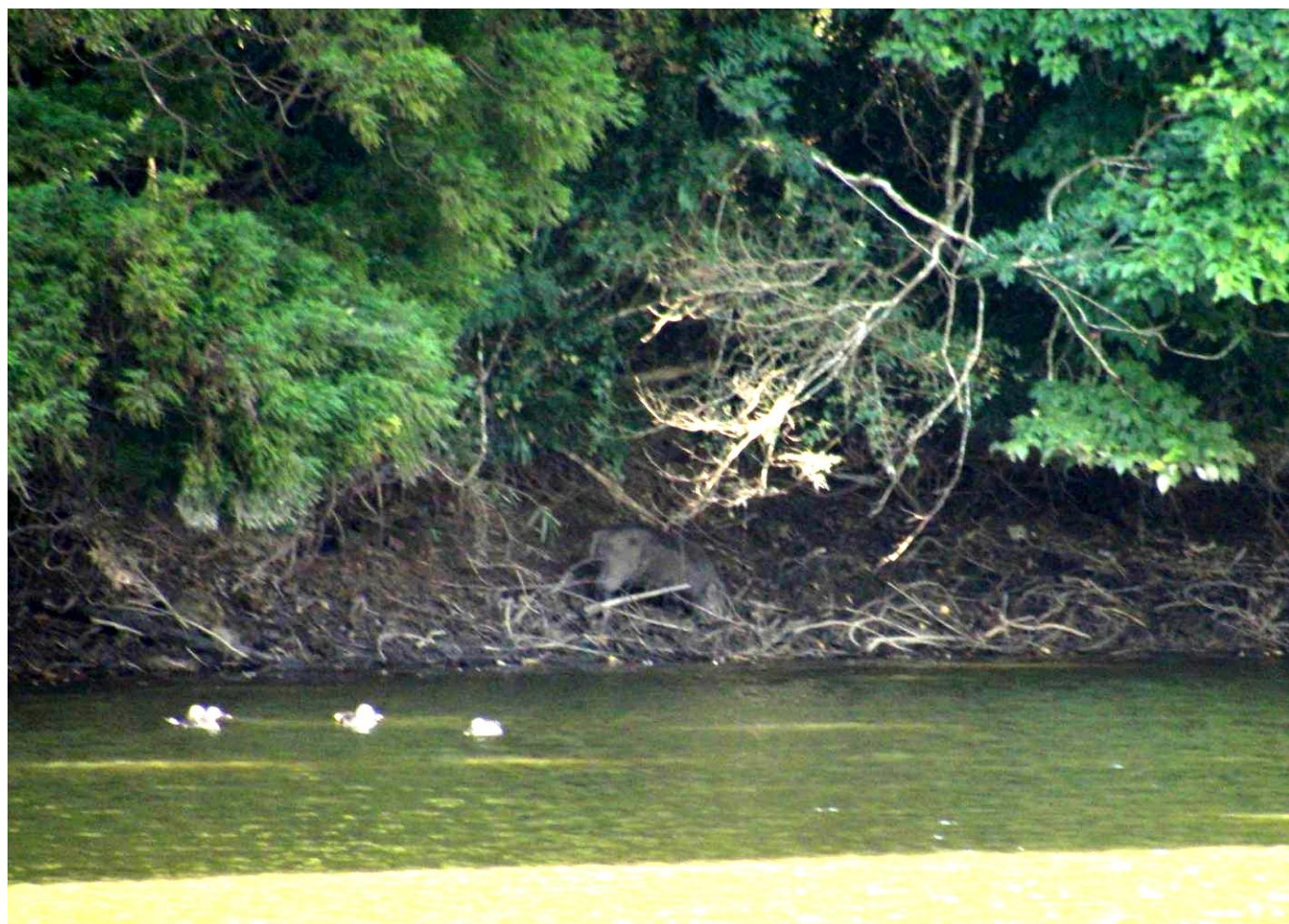
編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

指定管理者 (財) 千葉県環境財団

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>



昨年の冬から畑周辺でラッセル痕が、春には湿性生態園の中で泥浴びをしたヌタ場の跡や、ひづめの跡が見受けられていました。夏には日照りで堰の水位が下がり、泥の地表が露出した部分ではヤナギ林の中を荒らした跡が見られていました。収穫が近づいてセンター内水田で稲の食害が発生し、イノシシの仕業ではないかと疑われていましたが、9月2日午前9時についに万木堰の南岸を歩いているイノシシを発見、撮影することができました。

カルガモを双眼鏡で観察中のことでした。写真のどこにいるか発見できますか？

## 平成 22 年米作り日誌

今年も無事に稲作がすべて終了しました。収穫を終えてほっと一息をつきつつ、平成 22 年の稲作を振りかえってみることにします。

3 月半ば、畦切り、畦塗りをを行い、4 月中旬に整地を耕運機で行い田植を迎える準備が整いました。



5 月 1 日（土）の五月晴の中、東京や、千葉市、近隣の市町村から子供 5 名、大人 14 名とボランティア、職員合わせて 29 名で 432 m<sup>2</sup>の田んぼにコシヒカリの田植を行いました。

田植が初めての人が多く、田んぼに尻もちを着いて泥だらけになる人もいれば、背中に子供を背負いながらの人もいました。慣れない作業に、無事に終わるのか心配しましたが、参加者の皆さんは和気あいあいと一生懸命で、予定より早く終わることが出来ました。

田植を終えて、参加者の皆さんからは、自然を満喫できた、素足で田んぼに入れてよかった、とてもよい体験が出来た、子供にすばらしい体験ができた、秋が楽しみ等々の意見が寄せられました。



田植後は気温が低い日が続き、生育が心配されましたが、7 月に入ると天候が回復し生育も順調になりました。ところが、今度は猛暑が続きどうなる事やらと心配されましたが、なんとか出穂（しゅっすい）期を迎え、花も

咲き、少しずつ稲穂も頭を垂れました。

8 月の猛暑が続いたころには雨も降らず、裏の農業用堰の水量も減り、水の心配が多くなりました。田んぼの中は幅 5 cm、深さ 20 センチ程度の地割れが起きました。稲の生育も予想より早くなり、稲刈ころには枯れてしまうのではと心配する毎日でした。

心配の多かった今年の夏から秋でしたが、9 月 4 日（土）、無事に稲刈を迎えました。東京や千葉市、近隣の市町村から大人 14 名、子供 6 名とボランティアの人達、職員の総勢 30 名で猛暑の中、熱中症を心配しながらコシヒカ리를刈り取りました。

稲刈が初めて、鎌を使うのがそもそも初めてという人が多くいましたが、参加者の皆さんの力いっぱい作業で、予定していた全ての稲を刈り取ることが出来ました。刈取終了後は、刈り取った稲をオダカケにしたり、昔の農機具の千歯こき、足踏み脱穀機や唐箕（とうみ）を体験したりしました。また、コンバインの構造などを見学し終了となりました。

参加者の皆さんからは、楽しかった、田植から参加したい、とてもよい体験が出来た、ご飯を大切に食べたい、また参加したい、これからも続けてほしい、昔の農機具体験ができ良かった等々の意見が寄せられました。

今年の取れ高は 453 kg で、昨年より 25 kg 多い収穫量となりました。参加者のみなさんの食卓には、9 月下旬にはおいしい「夷隅米・コシヒカリ」が上ることでしょう。

平成 22 年の稲作も無事終了することが出来ました。参加者の意見に励まされながら、センターでは、さとの文化である米作りをこれからも続けていきます。

来年も多くの皆さんの参加をお待ちしております。



## 菜の花の栽培 —菜の花エコプロジェクト 2009～2010 の総括—

菜の花エコプロジェクト (No. 169 参照) では、6月8日に菜の花の収穫をした後、二週間の追熟・乾燥を行い、6月21日に鞘をはたいて種を採取しました。栽培面積約 300 m<sup>2</sup>に対し、収穫できた菜種の重量は約 39kg でした。唐箕でごみほこりを取り除き、その種の一部を使つての搾油デモンストレーションを7月10日に行いました。種の重量に対しての油の収穫率は 25%程度であろうという予想でした。



今年の菜種の生育・実の入りはやや不良のようでした。理由としては、春に寒さが長引

いたこと、間引きが十分でなかったこと、山の日陰が畑に伸びる立地であることなどが挙げられます。

残りの種は、搾油性能の良い長野県大町市にある美麻(みあさ)菜の花生産組合の機械にて搾油していただきました。今年の油は緑みかかった色がついていました。クロロフィルが溶けて残っていることで色が付いているそうです。その原因として、種の乾燥熟成時に刈り取ったナタネ束を横にしていたことが完熟に至らなかったようで、立てたままの方が熟成に望ましいそうです。そういえば、冷蔵庫に野菜を保存するときに、立てた方が良いという話があったようですね。



結果として、120の油が収穫できました。搾油性能の良い機械のおかげで、種の重量に対して 3割程度というなかなかの油の収穫率となりました。来年の菜の花栽培の準備が9月終りからスタートです。

## 畑の話題

今年春から夏にかけて、センターの畑では昨年栽培しなかったゴマ、ワタ、オクラの栽培を行いました。芽生え当初は虫にいたずらされ、生長が危ぶまれましたが、無事に収穫までたどり着くことができました。

ワタとオクラは、同じアオイ科の仲間です。そのため花の形がそっくりです。



(左: オクラ 右: ワタ)

実る物は、オクラは皆さんお馴染みでしょうが、ワタは「綿」に種が包まれた、コットンボールと呼ばれる果実ができます。ここから綿くり



機などで処理をし、私たちが日常で使う木綿になるのです。

一方ゴマですが、昨今国内での栽培はめっきり減ったため、来館者の方から初めて見た、幼いころ家で育てていたから懐かしい、といった声が聞こえました。花はベルの形に似た可愛らしいものでした。



立ち上がりこそ虫害にあいましたが、その後はすくすくと生長し、8月の終わりに収穫となりました。茎ごと刈り取り、乾燥させてから叩いてさやを割り、ゴマの実を取り出します。白ゴマと黒ゴマです。どれくらいゴマがとれるでしょうか？



## ■夷隅川流域よもやま話 —その2・水系と利水—

### ・夷隅川水系

夷隅川は共に標高約 180m 地点を源流とする、勝浦市上植野（勝浦ダムの近く）から流れる古新田川（こんたがわ）と勝浦市上大沢から流れる台宿川（だいじゅくがわ）が合流するあたりから夷隅川の名になります。延長 67.5km を流れて太平洋に注いでいます。その本流には、途中でいくつもの支流から水が集まっています。[右図:夷隅川の水系図参照]

上流部を勝浦市・大多喜町、中流部をいすみ市西部南部（旧夷隅町・大原町）、下流部をいすみ市東部（旧岬町）とすると、支流は次の表のようになります。源流部には、ダムが造られているところも複数あります。

(川の左岸とは下流に向かって左を、右岸は下流に向かって右をいいます。)



夷隅川の水系図

### ●夷隅川の支流一覧

	左岸	ダムなど	右岸	ダムなど
<b>上流部</b> 勝浦市 大多喜町	・古新田川 ・平沢川 ・紙敷川 ・沢山川 ・西部田川	勝浦ダム 平沢ダム	・台宿川   ・正立寺川	
<b>中流部</b> 御宿町 いすみ市西部南部 (旧夷隅町・大原町)	・初音川  ・松丸川 ・神置川		・大野川 ・上落合川 ・山田川 ・落合川	荒木根ダム 御宿ダム 東ダム、名熊ダム
<b>下流部</b> いすみ市東部 (旧岬町)	・桑田川 ・根木川		・弓取川 ・江場土川	岬ダム

して広がっていたもようです。高い山や大きな川のない房総丘陵では、大量に水を手に入れることはなかなか困難でした。土地に租税をかけられた中世・近世には新田開発と称して、そのような荒地を農地にしていく農地開発が営々と続いてきました。

米作りには、多くの水が必要不可欠なため、昔から農業用水の確保には先人たちの多大な努力工夫が凝らされてきました。隣村同士が水の取り合いで争う「水争い」があったという話も聞くことがあります。夏の日照り対策としてどうやって水

### ・夷隅川の田んぼへの利水

夷隅川沿いには多くの水田があり、現在ではおいしい「夷隅米」の産地として知られています。しかし米が安定してたくさん獲れるようになったのは、耕地整理、土地改良、農業の機械化が進展した昭和 30 年代のころからのようです。

そもそも水田は水の得やすい丘陵に接した谷津から作り始められました。水の入手しにくい場所、あるいは排水の悪い場所は、ただ草が生い茂っている荒地荒野（あれちこうや）と

を確保するのか、また台風大雨には洪水対策をどうするのか。自然災害とあきらめながらも、先人たちは営々と改良の努力を重ねてきました。その結果が房総丘陵に多く見られる堰であり、また思わぬところに見かける丘陵を部分的にくり抜いて作った用水路としての隧道（ずいどう）なのでしょう。

川から水をくみ上げて農地に使い始めたのは、大きな水車を考案したころからでしょうか。しかし、川の水位と田んぼの高低差が大

きなところでは難しい話でした。やがて発動機やポンプによる動力機械の登場によって揚水が本格化していきました。それは昭和になってからのことで、農業の長い歴史からするとつい最近のできごとになるでしょう。

旧夷隅町の作田、国吉というところでは、千葉県内でも耕地整理が先駆けて行われています。明治34年頃のことです。農地を区画整理して大規模化や灌漑・排水の充実を早くから進めていたということになります。耕耘(こうん)などで機械化が進むのは、もう少し後のことで、昭和30年前半までは牛が活躍していました。

豪雨のたびに冠水した田畑も、夷隅川流域沿いにはたくさんありました。昭和にもたびたびの冠水がありました。昭和の後半や平成になると上流部には「ダム」が作られ、洪水調整と貯水の機能を果たし、農業用水の確保と共に水道の水源にもなっています。

一方、夷隅川沿いでは「カンスイ」と呼ばれる天然ガスと塩分を含んだ水が出て、本流に流れ込んでいます。特に渇水期になると川

の流量が減って塩分が濃い水になります。塩分濃度が一定以上になると作物は水分吸収障害をおこすため、農地には適さない水になり、取水ができなくなります。川からの揚水では塩分濃度を毎日測定しつつ、取水の判断をするという苦労を続けていました。そこで昭和45年から8年をかけて、支流の大野川上流に荒木根ダムが造られました。ダムは塩分濃度を500ppm以下とする希釈水源として、放流量を調整しています。

最近では、夷隅川の水に依存する農地は約1500haであり、18箇所のポンプによる取水によって灌漑をおこなっています。

また、下流域では河口から6km上流の位置に、昭和49年潮止めの堰が作られています。干満による海水塩分の影響を断ち切るためです。

参考：千葉県庁 Web サイト

「夷隅町史 通史編 平成16年」

「千葉県の歴史 通史編 近現代編2」

「千葉県の歴史 通史編 近現代編3」

## 夷隅の方言

夷隅の方言の特徴は、何かを促したり誘ったりするとき語尾に「～ベー」「～ペー」が付くことです。若い人よりも年配の方のほうが多く使っているようです。

さて今月の方言です。

方言	標準語
アンテコッタ	何ということだ
オッカングル	怖がる
オッダス	追い出す
オンマス	追い回す
クデ	出来の悪いもの
ゴザッパタイ	最後まで居残る人
シラッパグレル	知らぬ振りをする

アンテコッタ、田んぼにイノシシが出た！オンマスでオッダスベー…とは簡単にいきませんが、今年の稲作はイノシシの徘徊に、オッカングル日々でした。

さあー、今月のクイズです。みんなヤッペー、ヤルベー！

## —第4回—

★方言クイズ★



それをユッカモやっているのだ

それはミテクレが悪いな



あなたはメダグリだ

答えが分からないで、ゴザッパタイの誰だっペー。

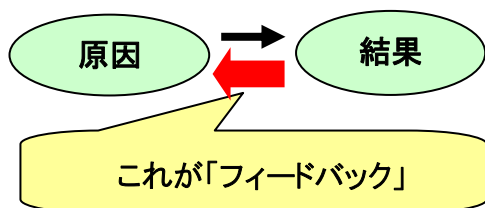
答え

- ・それを幾日やっているのだ
- ・それは見栄えが悪いな
- ・あなたは目が丸くて大きいね

## 地球環境問題のいろいろ -④炭素循環その2-

前回は地球誕生から現在まで46億年の炭素循環のお話をしました。また、前号の編集後記には「今年の夏はどうなるのでしょうか」という問いかけが記されています。アメリカ海洋大気庁（NOAA）が2010年1月～6月の世界の平均気温は過去100年間で0.7℃上昇、最近30年で北極海氷の総面積は10%減少、地球温暖化が進んでいることは明らか、と発表しています。温暖化のメカニズムに関する議論は結論にいたっていませんが、温室効果ガスが増加しているといった観測上の事実は変わりません。現象として地球温暖化が進んでいる、ということ再認識した方も多いと思います。

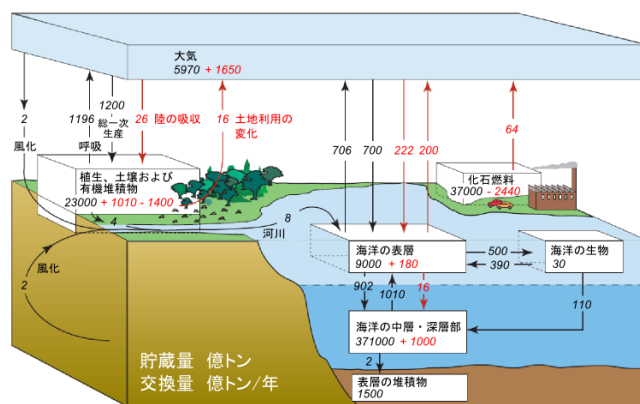
そこで再び炭素のお話です。フィードバックという言葉は良く知っていると思います。



実は地球温暖化問題で無視できないのが炭素循環におけるフィードバック効果なのです。気候の変化を促進する働きを正のフィードバック、抑制する働きを負のフィードバックと呼んでいます。問題となるのは正のフィードバックです。たとえば土壌では、人為的な温室効果ガス排出の増加が気温上昇をもたらす、土壌温度の上昇を招く。その結果、土壌有機物分解が加速し二酸化炭素を大気中に放出、結果として温暖化が加速する事態となります。海洋では、人為的な温室効果ガス排出の増加が気温上昇をもたらす、海洋表面の水温上昇は海洋の二酸化炭素取り込み量の低下へつながります。その結果、大気中に残存する二酸化炭素の増加が温暖化を加速する事態へとつながるのです。風が吹けば桶屋がもうかる、といった連鎖が気候変動にもあることを認識してください。

そして今の炭素循環はどうなっているのか。IPCCの報告書（権威ある報告書なのですが、クライメート事件以降は信頼性が揺らい

でありますが・・・）における、海洋を中心とした炭素循環の図の日本語訳が、気象庁のホームページに掲載されています。



炭素循環の模式図（1990年代）

前号とは数字が少し異なりますが、基本は同じ、海洋は大気中に存在する量の約50倍もの炭素を蓄えている、巨大な炭素の貯蔵庫ということです。そして、1990年代では大気中に毎年、土地利用の変化や化石燃料の消費で80億トンの炭素が大気へ放出され、1750年代から累計で1,650億トンも大気中に溜まったことになっています。

大気中に増え続ける炭素が温室効果ガスとして存在し、前述の正のフィードバックを促進している可能性がみえてきます。

今の気候変動モデルでは、このフィードバック効果がくみこまれていないものも多いと聞きます。二酸化炭素は単に石油や石炭の燃焼結果ばかりではなく、植物が腐って発生するメタンガス、燃える氷として知られるメタンハイドレートの昇華や燃焼、オイルサンドからも生成されます。

地球誕生後、大気中にあった炭素（二酸化炭素）が固定される（化石燃料、石灰岩など）ことで、地球は酸素で生活する生物が繁栄できる星に変わりました。そして、人類は固定された炭素を利用することでエネルギーや資源を得て発展してきました。でも、もしかすると利用税を「地球」に払わなければいけないのかもしれない。それも、かなりの重税となるのかもしれない。

【参考】

1.気象庁ホームページ 海洋の炭素循環 より

## 鳥の話題（２）

### ●初夏から真夏にかけて見られた鳥

センター施設周辺で見られる常連の鳥は、万木堰のカイツブリとカルガモ、堰周辺の山ではカケス、ウグイス、シジュウカラ、メジロが観察できました。

カイツブリは7月下旬に、雛が5羽確認されました。浮き巣が1つ、堰の南側の斜面近くに作られ、8月中旬まで浮巣近くで雛と親と一緒に行動していました。8月下旬には、親とほぼ同じ大きさまで成長しました。



カイツブリの親子 2010.08.08 万木堰

そのほかに堰でときどき見られたのは、アオサギ、ダイサギ、カワセミ、ツバメです。

5月にホトトギスが夏鳥として渡って来てからは、8月中旬まで毎日のようにトッキョッキョカキョクというさえずりが聞こえました。ウグイスに託卵するのですが、繁殖活動は確認されませんでした。

サシバは5月上旬に渡ってきて例年ですと10月中旬くらいまでは日本にいます。体長はカラスほどの大きさで、へび狩りの名手です。キミー、キミーと鳴くことからキミーダカとも呼ばれています。

センター施設周辺の山に営巣は確認されませんでした。一度に4羽飛翔していたことから、若鳥と思われる個体がいると推測され、繁殖に成功したと思われます。通常は松などの樹上の巣に2~3個の卵を産み抱卵し、32日でふ化するといわれています。

センター周辺は里山が形成されており、へ



サシバ 2010.8.20 センター上空にて撮影

ビヤカエル、昆虫など餌となる動物が多く生息しているため、サシバには適した環境になっていると思われます。

オオヨシキリも夏鳥として東南アジアから渡来し、センターでは5月上旬から確認されました。6月下旬までセンター水田の近くにあるヨシ原で、縄張り宣言と雌を呼ぶために、ギョッギョッシ、ギョッギョッシとさえずっていましたが、営巣は確認されませんでした。夏は野鳥にとって繁殖に適した時期であり、同じくヒヨドリ、シジュウカラも営巣は確認できていませんが、こちらはヒナが確認されたことから、繁殖に成功したと思われます。

その他、滅多に見られない鳥としてはヤマドリがあげられます。通常は暗い森の中でひっそりと生活をしていて、警戒心が非常に強いめなかなか見られません。たまたま湿性生態園の西側の斜面付近に、メスのヤマドリがうずくまっている姿が観察できました（写真）。それ以降は見られませんでした。

コジュケイのチョットコイ・チョットコイという鳴き声が時々聞こえましたが、姿は確認されませんでした。



ヤマドリ 2010.6.15 湿性生態園にて撮影

### ●確認された野鳥（初夏から真夏）

アオサギ、アオバズク、アマサギ、ウグイス、ウミウ、エナガ、オオタカ、オオヨシキリ、カイツブリ、カケス、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、キジ、キジバト、ゴイサギ、コゲラ、コサギ、コジュケイ、サシバ、ササゴイ、シジュウカラ、スズメ、セグロセキレイ、ダイサギ、チュウサギ、ツバメ、トビ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ホトトギス、メジロ、モズ、ヤマガラ、ヤマドリ、(37種類)

## いすみの秋祭り

9月に入って、いすみ市周辺では稲刈りの終わった田んぼに幟（のぼり）が立つようになりました。

いよいよ、収穫感謝の秋祭りのシーズンです。いすみ市の祭りといえば、「大原のはだか祭り」が有名で、毎年大勢の観光客でにぎわう、いすみの秋の風物詩のひとつとなっています。いすみの主なお祭りとしては、以下のようなものがあります。



### (1) 大原周辺

① 大原はだか祭り（祭礼日 9月23～24日）  
・大原周辺の18社のおみこしが大原漁港に集まった後、海の中を駆け巡り、海中に投げ上げられる「汐ふみ」行事や、夕方、花火を合図に大原小学校校庭で、おみこしを高く上げて別れを惜しむ「大別れ式」などが見所。

② 東地区の祭り（祭礼日 9月23日）  
・新田野郷3社、長志郷4社、山田郷4社の祭り。

### (2) 岬周辺

① 中根六社祭り（祭礼日 9月25日）  
・中根地区の六社の祭礼で、「親の日だ（おおやのへいだ）」という人間ピラミッドが見所。

② 天神社と長者・中根地区の十三社祭り  
（祭礼日 9月25日）  
・長者学区の各社のおみこしが集合し、山車を先頭に街中を天神社に向かっておみこしが練り歩く。

### (3) 夷隅周辺

① 松丸八幡神社の祭り  
（祭礼日 9月の第2土曜日）  
・2年に1回の祭礼のため、平成22年度はなし。万灯や流鏝馬（やぶさめ）などが見所。

② 八社神社のお祭り（祭礼日 9月19日）  
・島地区にある八社神社のお祭りで、大人みこしや子供みこしなどが出る。平成22年は

2年に1度の開催年。

③ 國吉神社のお祭り（祭礼日 9月19日）  
・毎年敬老の日の土日のいずれかに実施。おみこしが国吉地区を練り歩く。神楽囃子などがある。

今回はセンター近くのお祭りとして、國吉神社のお祭りを取り上げてみました。

國吉神社境内の由緒書きによると、「國吉神社の鎮まる苧谷幸野（かりやさいの）の地は、今から約1500年前の安閑天皇（あんかんでんのう）の御代に伊自牟国（いじみこく、後の夷隅）に春日皇后の屯倉（みやけ：御料地）が置かれ、勅使（ちやくし）を迎える仮屋（かりや）が設けられた地であり、後に信州から諏訪大神を勧請（かんじょう）し、神社が創建され、明治時代には各地の神々がまつられ國吉神社と称した」だそうです。

「いすみ」という地名はとても歴史と由緒のある名前であることがわかりますね。

さて、國吉神社のお祭りの次第ですが、午前8時から神事があり、神楽の奉納などの後、午前11時から町中をおみこしが練り歩きます。

おみこしが回る道順は、

①国府台（こうのだい）→②万木（まんぎ）→③楽町（らくまち）→④今関（いまぜき）→⑤弥正（やまさ）→⑥苧谷（かりや）

であり、国府台や弥正では神楽囃子が行われます。やがて国吉地区を練り歩いたおみこしは夜の10時に宮入（みやいり）となり、祭りが終了します。

このお祭りは五穀豊穰、収穫感謝のお祭りだそうです。



（取材協力：いすみ市郷土資料館、国吉神社）



## 《 行事報告 》

6月27日、8月22日

いすみ健康ぞうりをつくろう



6月、8月と2回開催されました。合わせて大人10名の参加がありました。

いすみ健康ぞうりとは、ワラの代わりにワラに似た質感のポリプロピレンのひも（通称PPひも）を使って作るぞうりです。ワラ草履より日常で使いやすいという声もあります。

6月の行事に参加し、完璧に覚えたいと8月の行事にも参加した方もいらっしゃいました。

皆さん、自分の健康ぞうりを作り上げることができました。

7月4～11日

ハス観賞週間



春先の低温とアメリカザリガニに、花が咲くのか不安を隠せませんでした。今年も無事6月26日に開花いたしました。

今年は葉丈が大きくなり過ぎて、葉の下で窮屈そうに咲いてしまうつぼみも多くありましたが、花自体はたくさん見ることができました。

毎年このハスを見に来ます、楽しみにしています、今年もきれいですね、といった感想をいただきました。

7月24日

海辺の植物観察



大人11名、小人1名の計12名の参加がありました。

天気に恵まれ、太東海浜植物群落地周辺の、海辺の植物観察に出かけました。工事中で通行止めの場所もありましたが、海岸林やスカシユリ、イソギク、ハマナデシコ、ミヤコグサ、ボタンボウフウなどを観察しました。砂浜での観察では、ツルナ、コウボウシバ、コウボウムギ、ケカモノハシ、オニシバ、ハマヒルガオ等の観察を行いました。

普段目にはしているけど、知らなかった植物の事が分かり良かった、という声が多く聞こえました。

**8月1日**

**夏の星座観察**



大人12名、小人9名、計21名の参加がありました。

まず図書室でプロジェクターを使い、星の動きや当日見られる星を勉強しました。

暗くなってからデイキャンプ場へ移動し、フィールドスコープや天体望遠鏡を使って土星や金星、春の大曲線の観察をしました。土星の輪がはっきりと見えたこと皆さん感激していました。駐車場に場所を移してから、夏の大三角形の観察をしました。

終了後は、季節を変えてまた星座観察をしたいという声が多く聞こえました。

**8月21日**

**トンボの沼のトンボを見に行こう**



大人8名、小人4名の計12名の参加がありました。

センターに集合してからトンボの沼へ移動し、皆で捕虫網を持ってトンボを採集しました。最初は自分で捕まえたトンボに触れない子もいましたが、最後には皆で虫取り少年・少女になっていました。

今回観察できたトンボは、アオモンイトトンボ、オニヤンマ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ノシメトンボ、コシアキトンボ、チョウトンボの計8種でした。そのうち、オニヤンマ、ギンヤンマ、チョウトンボは採集できず、飛んでいる姿を観察するだけでした。

**9月4日**

**米作り2・稲刈り体験**



大人14名、小人6名、計20名の参加がありました。

炎天下の中、秋らしい風は望めず、大汗をかきながらの稲刈りでした。皆さん手刈りで約430㎡の田の稲を刈り、ワラでまとめてオダにかけました。その後、今は使用されることの少なくなった、千歯こきや足踏み式回転脱穀機、唐箕（とうみ）といった昔ながらの農機具を使い、脱穀などを体験しました。

都会育ちのこども達にすばらしい体験になった、昔ながらの本格的な稲刈りは初めてでとても面白かった、昔の農機具がうまくできていると感心した、といった感想をいただきました。

☆行事報告の詳しい内容は、センター日誌 (<http://isumisato.exblog.jp/>) にてご覧いただけます。

6月19日の太東の岬で海辺の自然を観察しようは雨天のため中止となりました。

## これからの行事案内

10月

(8月1日から受付開始)

### ●竹トンボを作ろう

3日(日)9:30~12:00 定員 20名

自分の竹トンボを作って飛ばしてみましょう。

対象:小学4年生以上

### ●草木染め体験

9日(土)10:00~15:00 定員 20名 雨天順延 10日

自分でデザインをして、自然の色で染めましょう。

対象:小学生3年生以上

▲参加費(1000円)

持物:剪定バサミ、作業できる服装、お弁当、飲物

### ●竹かご教室 全4回開催 定員 20名

23、24、30、31日(各土曜日曜)10:00~16:00

竹取り、ひご作りから始めて4回終了までに完成させましょう。

対象:高校生以上、全4回参加できる方

▲参加費(500円)

持物:竹用ナタ、竹ひきノコ、膝あて

植木ばさみ、軍手、弁当



11月

(9月1日から受付開始)

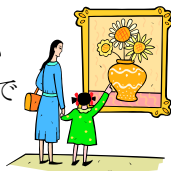
### ■第14回 さとの文化祭

16~23日(火曜日~火曜日)

自然を様々な形で表現した作品がセンターに飾られます。鑑賞はご自由にどうぞ。

作品応募:センターにお問合せ下さい

作品搬入:10月26日~11月2日まで



### ●たこを作ろう

①20日(土) ②21日(日) 9:30~12:00

各回定員親子6組

凧をつくって、揚げてみましょう。

対象:小学4年生以上

▲参加費(500円)

持物:工作バサミ、軍手、飲物



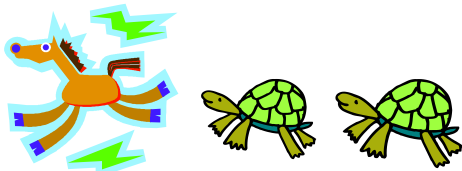
### ●米作り3・わらでおきもの細工を作ろう

28日(日)10:00~15:00 定員 20名

縁起のいい亀のそばに馬がいるとうまくいきます。

対象:中学生以上 ▲参加費(100円)

持物:植木バサミ、座布団、寒くない服装、お弁当



12月

(10月1日より受付開始)

### ●つるでリースを作ろう

4日(土)10:00~16:00 定員 20名 雨天5日

つるを使ってリース作りをします。山に入って自分でつるも取りに行きます!

対象:中学生以上

持物:鎌、剪定バサミ、軍手、長靴

山に入れる寒くない服装、弁当



### ●米作り4・もちつきをしよう

11日(土)10:00~14:00 定員 40名 雨天12日

つきたてのお餅を味わって、お正月の丸餅を作りましょう。

対象:特になし

▲参加費:一家族500円



### ●米作り5・おかざりを作ろう

23日(木) ①9:00~12:00 ②13:00~16:00

2回開催 各定員 20名

わらを使ってお正月のおかざりを作りましょう。

対象:中学生以上

▲参加費:500円

持物:工作バサミ、座布団、

寒くない服装



1月

(11月2日より受付開始)

### ●そばうち体験

16日(日)10:00~14:00 定員 20名

そばを自分で打って、皆で味わいましょう。

対象:中学生以上

▲参加費:1000円

持物:ボウル(約30cm)、割烹着、

手ぬぐい、タオル、寒くない服装

場所:千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

集合後、別会場に移動



### ●つるでかごを作ろう

30日(日)10:00~16:00 定員 20名

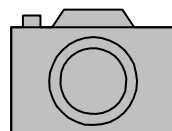
つるを使ってカゴ作りをします。

山に入ってつるも取りに行きます!

対象:中学生以上

持物:鎌、剪定バサミ、軍手、長靴、

山に入れる服装、弁当、雨具



### ★いすみ環境と文化のさと 写真コンテスト開催★

詳しくは、HPまたはセンターまでお問い合わせください

## センターの生き物たち



### ノブドウ／ブドウ科

北海道から沖縄までに分布する落葉つる性植物です。丘陵地から山地の日当たりのよい林縁などに自生します。

ヤマブドウに似ていますが、実はまずく食用にならないそうです。果実の色は、秋に緑色から淡い紫色になり、そして空色に熟すそうです。秋の野に空色の果実は目を惹き、とても美しいでしょうね。

まだまだ緑色ですが、空色に熟すのを楽しみに待っています。



### モズ／モズ科

モズはタカの仲間ではないのですが、食物のほとんどが小動物と昆虫などの肉食の鳥で、くちばしがタカのようにカギ形に曲がっています。9月上旬にはキーン、キーンと「高鳴き」をし、オス・メスの区別なく一羽ずつの縄張り宣言をします。

「モズのはやにえ」といって、捕獲した虫を小枝の先に刺しておくことで有名ですが、これは本能に基づく行動と考えられています。「百舌」という当て字は、百の鳥の鳴き声をまねる複雑な鳴き声をすることからついたようです。

## いすみ楊枝 —千葉県伝統工芸品—

センターでは、「いすみ楊枝」を県内外に広く紹介するため、毎月高木守人氏に実演をお願いしています。

**日時** 毎月第3日曜日(9:30~16:00)

**場所** ネイチャーセンター

**講師** 高木守人氏

**参加料** 材料費など実費をいただきます

**内容** 楊枝・花入れ・茶杓作り など

### 編集後記

前号で「今年の夏は？」と書きましたが、終わってみれば記録的な猛暑、日本だけではなく世界中で平均気温が平年を上回っていたようです。

「この暑さでは、きっと海かプールへ行く人が多くなるのだろう」と話し合っていました。ザリガニ達は、子供たちの格好の遊び相手になっていましたが、今年は、サギ類にけっこう捕食されていました。

これから気候も良くなり、お出かけ日和のときには、ちょっとした自然観察に当センターへおいで下さい。

皆様のご来館をお待ちしています。

所長

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)、ファックス(0470-86-5252)、または、直接センター事務室にお申し出下さい。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承下さい。全ての行事はネイチャーセンターに一度集合してから移動します。

\* eメール可(メールアドレス:senta-sato@isumi-sato.com(すべて半角小文字です))

\* 行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ず早めにセンターまでご連絡下さい。

## ◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間：9:00~16:30、入館料：無料

※当施設のご案内や解説などを希望される団体は、2週間前までにお申し込み下さい。